

我々の分身ともいえる開拓地

鳥取県江府町^{こうふちやう}の笠良原^{かさらはら}開拓は、大山の南麓に位置し、岡山県に接している。標高約7～800mで、本谷と細谷に挟まれた細長い台地にある。

大山^{だいせん}隠岐^{おき}国立公園内にあり、景観が美しい山里であるが、土地は大山特有の火山灰土で土質が悪く、高冷地なので冬には2m以上の積雪となる。

また、地形が台地ということで、水の確保には困難を極めた。

46年に、鳥取県と出光興産^{しゅくこう}が共同で開拓を行うこととなり、満州開拓からの帰国者を中心に、13戸が入植した。

開拓地としては条件があまりにも悪く、一面カヤの草原で、当初はサツマイモ・ジャガイモ・大豆しか栽培できず、収穫も少なく、厳しい状況が続いた。

51年には、共同経営者の出光興産が撤退してしまい、更なる苦境に立たされることとなった。その後、相次いで離農する家族が増え、4戸だけとなってしまった。

残った4家族は、大根を始めとする野菜栽培、養蚕、和牛飼育、花木栽培へと取り組み、この地を守ってきた。

食用作物が主体であったが、より収益性の高いものにも挑戦するようになった。悪条件を、努力によって好条件に変革させてきた。

ところが2005年、奥大山の天然水を求めてサントリー^{さんとりー}が進出してきた。この奥大山は日本有数のブナの原生林が広がっており、山や木々でろ過されたおいしい天然水が着目されたのだ。

この笠良原開拓地にも、工場用地提供の要請があった。これまで4家族で必死に守り抜いてきた土地であったが、熟慮に熟慮を重ね、結果、江府町の将来展望を鑑み、我々の分身ともいえる「開拓地」の大半を譲渡することにした。

07年、開拓60周年の節目に当たり「笠良原開拓魂」が未来永劫人々の心に残ることを願い、開拓の歴史を記した記念碑が建てられた。

(今回の記事は、碑文を基に作成した)